

## 第10回学会賞（実践部門）の実践内容と受賞理由

## 1 田辺三菱製薬株式会社および田辺三菱製薬健康保険組合

——コラボヘルスに基づく健康課題の可視化と心身の健康リスクの低減

- (1) 実践内容：企業と健康保険組合が有するデータの合理的共有および分析を通じた健康課題の可視化と心身の健康リスクの低減

田辺三菱製薬株式会社は、多くの合併・商号変更等を経て2007年に誕生したグローバルに事業展開をしている製薬会社である。同社は、総資産9000億円超、売上げ収益4000億円超、従業員約7000人超（2016年現在）の大企業である。

同社と田辺三菱製薬健康保険組合は、2014年からデータ分析・共有を通じた健康課題の可視化と健康プログラム設計を推進するコラボヘルス研究会に参画し、広範囲にわたる従業員関連情報の統合により、集団として細部まで目の届く産業保健活動を実践してきた。すなわち、健康経営における健康投資の向上を求める企業とデータヘルス活動の向上を求める健康保険組合の両者が参加する産業医科大学の研究プロジェクトであるコラボヘルス研究会に、同社と田辺三菱製薬健康保険組合が参画することによって、従業員集団の健康情報、就業情報および生活習慣情報の「見える化」を実現した。これらの情報の「見える化」によって、容易に従業員集団の健康リスク状況を詳細に解析できるようになった。従業員集団の健康リスク状況の詳細な解析は、細部まで目の届く産業保健活動に大きく寄与し、職場としての将来の健康リスクを算出し、それに基づいた中長期的な予防施策を打ち出すことを可能としている。ここで求められる情報は、個人を特定できる情報でなく、従業員集団の健康リスク状況を把握できる情報である。同社と田辺三菱製薬健康保険組合は、産業医科大学の研究プロジェクトにそれぞれ別個に所有する電子データを提供し、提供を受けた大学では、個人を特定できる情報を外して匿名化した電子データを、健診結果、ストレスチェック、レセプト結果等の健康情報、就業情報及び生活習慣情報を「見える化」できるデータとして情報提供元に提供した。この「見える化」は、大学という第三者機関があつて実現できたのである。

心身の健康リスクを低減する活動を実施する体制も、メンタルヘルスを実践できる産業医と現場に密着した産業看護職とを配置する、効果的効率的な体制としている。すなわち、臨床経験豊富な精神科医を嘱託の産業医として東京、大阪に配置し、産業看護職が行う従業員への予防的な面接や不調を抱える従業員への支援業務や指導面接等も行っている。また、心身の健康増進が図られ、メリハリある働き方を実践するために長時間労働比率の低下や有給休暇の所得率向上など、関係部署とも連携した施策を実践している。

主体となる産業看護職のほとんどは正社員であり、長期雇用を前提に、一般社員と同様に研修も受け、他部署との調整、規程策定等、産業保健に関する様々な業務も、産業看護職が主体となつて行える態勢となっている。そのため、社内の業務や関連事項もよく理解しており、同期の連帯といったいわゆるサラリーマン的な面も一般従業員とともに経験し、現場の業務、会社・従業員の置かれている状況を十分理解しているため、産業看護職の孤立の恐れもなく専門職でありながらジェネラリスト的な業務もこなせる点も実効的、効率的な業務につながっている。

なお、同社は第一回「健康経営優良法人2017」（経済産業省・日本健康会議）大規模法人部門の認定を取得している。

## (2) 受賞理由

田辺三菱製薬株式会社および田辺三菱製薬健康保険組合は、2014年からデータ分析・共有を通じた健康課題の可視化と健康プログラム設計を推進するコラボヘルス研究会に参画し、広範囲にわたる従業員関連情報の統合により、健康課題の可視化に取り組んできた。特に、外部の第三者である大学を活用し、コラボレーションをすすめることによって個人情報の問題を乗り越えた点は、今後大きな示唆を与える先行事例となるものである。

また、職場の実情・組織の風土特性をよく理解でき、多数の業務をこなす産業看護職層を育成していることは、今後も効率的効果的な成果を継続する仕組みの一つとして評価することができる。

心身の健康リスクを低減する活動を実施する体制も充実しており、オーソドックスなメンタルヘルス対策の継続的实践によって効果をあげている点も評価できる。

これらの優れた実践活動の結果、2016年には2015年対比で肝機能・脂質・血糖に関する有所見率は低下した。また、メンタルヘルス対策においてもワーク・エンゲイジメント指数・組織の総合健康度指数もメンタルヘルスの健康リスクの数値も2016年には2015年対比で改善している。心身の健康度は改善している成果が現れている。